

殺虫剤
兼商ベネビアOD
シアントラニリプロール水和剤

平成28年10月19日付けで以下の通り適用拡大されました。

＜変更内容＞

- ・作物名「だいこん」に、適用病害虫名「カブラハバチ」を、希釈倍数「2000～4000倍」にて追加する。
- ・作物名「きゅうり」に、適用病害虫名「アザミウマ類」及び「ハモグリバエ類」を、希釈倍数「2000倍」にて追加する。
- ・作物名「レタス」の適用病害虫名「ナモグリバエ」を「ハモグリバエ類」に変更する。
- ・作物名「ねぎ」の適用病害虫名「ネギアザミウマ」及び「ネギハモグリバエ」をおのおの「アザミウマ類」及び「ハモグリバエ類」に変更する。
- ・作物名「ねぎ」のシアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数について、「4回以内（灌注は1回以内、散布は3回以内）」を「4回以内（定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内）」に変更する。

下線が変更部分、**太字**が拡大部分です。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コガ [○] 、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ ハイマダラノメイト [○] 、ウバ [○] 類、オオタバコガ [○]	2000～4000倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内)
	アザミウマ類、アブラムシ類	2000倍					
はくさい	コガ [○] 、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ ハイマダラノメイト [○]	2000～4000倍					
	アブラムシ類	2000倍					
だいこん	コガ [○] 、アオムシ、ハイマダラノメイト [○] 、 カブラハバチ	2000～4000倍					
	ヨトウムシ	4000倍					
	アブラムシ類、ハモグリバエ類、キスジノミハムシ	2000倍					
ブロッコリー	アオムシ、ハスモンヨトウ、コガ [○]	2000～4000倍					
	アザミウマ類、アブラムシ類	2000倍					
トマト	オオタバコガ [○]	2000～4000倍					
	ハモグリバエ類、コナジラミ類、アブラムシ類	2000倍					
アブラムシ類、コナジラミ類、 アザミウマ類 ハモグリバエ類 、ウリノメイト [○]							
ピーマン	アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類						
	オオタバコガ [○]						
レタス	オオタバコガ [○] 、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	2000倍					
	<u>ハモグリバエ類</u> 、アブラムシ類						
ねぎ	シロイチモンジヨトウ、 <u>アザミウマ類</u> 、 <u>ハモグリバエ類</u>	2000倍					
いちご	ハスモンヨトウ	2000～4000倍					
	アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類	2000倍					
えだまめ	アブラムシ類	2000～4000倍					
	ハスモンヨトウ、マメシクイイト [○]						
だいず	アブラムシ類	2000倍					
やまのいも	ナガイモコガ [○] 、ハスモンヨトウ	4000倍					
かんしょ	ハスモンヨトウ、ナガイモシロコガ [○]						
ばれいしょ	ハスモンヨトウ	2000倍					
	アブラムシ類						
かぼちゃ	ハスモンヨトウ	4000倍					
たばこ	ヨトウムシ						
			100～ 180L/10a	収穫10日前 まで	2回以内		2回以内

<使用上の注意事項の変更>

【変更前】

- (4) アルカリ性の農薬や肥料との混用は避けること。

【変更後】

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- (4) アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけること。
- (5) やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。特に、TPN を含む農薬、ストロビルリン系の薬剤を含む農薬および銅剤との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないこと。
- (6) トマトに使用する場合、ストロビルリン系薬剤を含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて本剤を使用すること。
- (7) ねぎ以外の作物に使用する場合、展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤は加用しないこと。ねぎに使用する場合、展着剤加用に当っては事前にその適否を確認すること。
- (8) 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。
- (9) 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用すること。
- (10) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (11) ミツバチに対して影響を与えるおそれがあるので、散布の際はミツバチ及び巣箱にかからないようにすること。また、散布直後から1日後まではミツバチを散布区域外に移動させるか、巣門を閉じること。
- (12) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (13) 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。
- (14) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。